

# 論文・レポート作成時の注意事項

2024/01/30 須崎純一

毎年繰り返し注意することが多い事項を下記に列挙します。

## ● フォント

本文は基本的に明朝体で、英数字は Times New Roman、見出しはゴシックと Times New Roman と分けることで、見た目の分かりやすさが増します。図表の中で使用する日本語はゴシック体で、英数字は Tines New Roman、図表の見出しも同様です。最終的には、個人の感性で自由に設定して下さい。但し、統一した使い方を心掛けて下さい。

## ● 図表中の文字

本文の文字サイズと同等かそれ以上の大きさに設定して下さい。

## ● 図表の見出し

簡潔な体言止めの見出しを心掛けて下さい。表の場合は表の上、図の場合は図の下につける形式が一般的です。また自己完結型で本文を参照しなくても内容が理解できるようにすべきで、下記の例のように必要に応じて文章で補足して下さい。見出し一文で終わる場合は句点はついていないことが多いようです。一方で複数の文章にわたる場合には句点がつきます。

図-1 武雄 JCT 上空写真

図-1 武雄 JCT 上空写真. 赤枠は地滑りにより路面のアスファルトで地盤隆起が発生した領域を表す.

## ● 衛星画像

縮尺(スケールバー)と方位記号(北向き)を入れます。また Google Earth, Map 等を使用している場合、キャプション中に「Google Earth を使用」等と明記して下さい。

## ● 数値と単位の間の空白

75cm → 75 cm

のように、数値と単位の間には空白を入れて下さい。英文論文ではそのように記載されています。但し、%の時は空白を入れていないようです。

## ● 略称

Digital Elevation Model (DEM)

のように、「正式名称 (略称)」(半角スペースを入れて)の順に書いて下さい。和文論文では「略称 (正式名称)」の順番が多いですが、国際的には「正式名称 (略称)」が標準です。

- 章・節・項の見出し

体言止めで書きますが、目次を読んだだけでもざっと内容が分かるような表現を選んで下さい。また項目 A と B は同列なのか、あるいは B は A よりも下の位置づけなのか、項目間の関係を意識して記述します。

例)

(1) 測量学の歴史

1) 国外

2) 国内

(2) 現在の測量

1) 基準点測量

2) 三角測量

3) 水準測量

4) GPS 測量

(3) 今後の測量

- 手法と結果

提案する手法は汎用性を持たせるために客観的であるべきで、具体的な数値などはあまり含めません。一方で実験結果は具体的であるべきで、実験時に使用したパラメータの値などを記します。

- 結果と考察

結果はあくまでも客観的な数値の報告で、自分の意見は差し挟みません。一方で、考察では、自分が設定した仮説や提案手法の妥当性や改善点など、主観的な考えを述べます。常に両者の違いを意識して、どちらで書くべき内容か吟味しながら記述して下さい。

- 結論

論文全体を振り返るもの、既存手法などを細かく紹介する必要はありません。

「研究の背景→目的→手法の概要→実験結果→考察→今後の課題」という流れが一般的です。

- 概要

結論と同様に、論文全体を振り返ります。結論とは違って、本文の内容を読んでいない時点で

の情報ですので、「研究の背景」や「目的」といった研究の位置づけを重視して下さい。  
「研究の背景→目的→手法の概要→実験結果の概要」という流れが一般的で、新たに分かつたこと、できるようになったことを強調します。余裕があれば「今後の課題」も書きます。

## ● 参考文献

各文献は一つの文章としてみなされますので、文献の末尾に . (ピリオド)をつけます。また学会の投稿論文では、2 行目以降は字下げが多いです。また本文で参照する際には日本語の場合、「佐藤ら[1]は」と続けますが、英語の場合、「Sato et al. [1]は」のように半角スペースを入れて下さい。

- 1) 加藤圭太, 山崎文雄:ALOS/PALSAR 画像を用いた 2008 年岩手・宮城内陸地震による水域の変化抽出, 日本地震工学会論文集, 第 10 卷, 3 号, pp. 3\_1-3\_11, 2010.
- 2) 山下久美子, 神山嬢子, 鈴木大和, 野呂智之, 杉本惇, 柴山卓史, 鵜殿俊昭:二時期 SAR 強度画像を用いた土砂移動箇所判読精度の検証 –平成 29 年 7 月九州北部豪雨の事例–, 砂防学会誌, 71 卷, 6 号, pp. 21-27, 2019.

また、下記のように論文誌によって書き順が違うことがあります。どの書き方でも結構ですが(個人的には IEEE 系で採用されている下記の 1)の書き方に馴染みがあります)、自分の修論、卒論の中で統一して書いて下さい。

- 1) Ferretti, A., Prati, C. and Rocca, F., Permanent scatterers in SAR interferometry, IEEE Trans Geosci. Remote Sens, vol. 39, pp. 8-20, 2001.
- 2) Ferretti, A., Prati, C. and Rocca, F., 2001. Permanent scatterers in SAR interferometry. IEEE Trans Geosci. Remote Sens, vol. 39, pp. 8-20.

## ● 原稿校正段階

卒論、修論を私に確認してもらう際には、原稿を

- 概要や謝辞も含めて一通り完成した状態
- 1 枚に 2 ページ配置
- 両面長辺とじ
- 白黒印刷(カラーで印刷すると費用が嵩みます)
- 長辺の 2 か所をホッチキス止め

で用意しておいて下さい。用意ができたらメールで連絡して下さい。